入試に関するお問合せは浦和大学・入試広報課まで 048-878-5536

浦短通信 介護の扉 第7号

浦和大学 浦和大学短期大学部

公開講座:「新たな介護の可能性」〜セラピーロボットによる認知症高齢者ケア〜が開催されました。

2016年3月28日（月）に、公開講座「新たな介護の可能性〜セラピーロボットによる認知症高齢者ケア〜」が開催されました。

当日は、大和ハウス工業株式会社の岩見武敏氏から、メンタルコミットロボット「パロ」の特徴や効果についての講演があり、その後参加者が「パロ」と触れ合う体験が行われました。公開講座参加者からは、「パロとの触れ合いが楽しく感じられた」、「介護ロボットの重要性や可能性を理解することができた」、「介護ロボットの活用を、より深く考えていきたい」などの感想をいただき、大変好評のうちに終了しました。

本学では、今後も地域貢献活動のひとつとして、公開講座を開催する予定です。

社会福祉士の資格で広げる将来の可能性

Voices 介護福祉科 2013年3月卒業 石葉 勝大さん

浦和大学には、2つの国家資格の取得を目指す学生も多くいます。

福祉の仕事に携わりたいという思いから、介護福祉士の資格取得を目指し、介護福祉科に入学しました。二年間の学びを通じて福祉への理解が深まるにつれ、もっと福祉を学びたいと考えるようになりました。また、介護福祉士だけではなく、社会福祉士の資格を取得することで、将来の仕事に幅が出るとも考え編入を決めました。編入後は授業と実習のほか就職活動、卒業論文とスケジュールの調整が大変でしたが、介護福祉士を取得してからの積み上げ学習だったこともあり、現役で社会福祉士国家試験に合格することができました。仕事はまだ1年目で介護に関する業務に携わることが多いですが、今後、これまでの学びを活かし、相談業務に携わっていきたいと考えています。

ベトナム政府・メコン大学関係者等が本学の介護福祉教育を視察

ベトナム政府教育訓練省と、介護福祉職教育を開始する準備を進めているベトナム南部にあるメコン(Cửu Long)大学の関係者が、4月21日、本学を訪れ介護福祉教育を視察するとともに、学長、学科長等と意見交換を行った。

先進国だけでなく、アジアの発展途上国と呼ばれている国々でも高齢化が進んでいる。専門職教育がないが、専門職のニーズが国の内外で広がってきていることが認識されている。しかし、高齢者介護について専門的知識が蓄積されていないことから、我が国の介護技術教育に注目して、導入を検討しているのである。そして、日本語教育も合わせて行い、日本でも活躍できる専門職を養成しようとしている。

メコン大学の関係者からは、本学の教員に指導に来て欲しい旨の発言があったし、本学での視察によって介護福祉教育に意欲が高まったと後日、報告された。アジアに共通の高齢社会を支えるという社会的課題の解決に、本学が協力できることは、ベトナムと日本、相互に寄与できることである。

▲青柳・平澤教授による生活支援技術の教育機器の説明

学食体験有☑

6.11 13:00-15:30 SAT

6.26 10:30-15:00 SUN

7.9 13:00-15:30 SAT

オープンキャンパスなら、介護がもっとわかる!

主なプログラム：入試・奨学金制度の説明、就職状況紹介、学部説明、模擬授業、個別相談、学内見学ツアー、資料配布など

介護とキャリアアップ 介護福祉士の資格から広がる可能性

介護職の将来性について、不安を持っている人は多いようです。しかし、介護福祉士として経験を積むことで、さまざまな可能性が生まれてきます。

例えば、訪問介護事業所で働く場合、介護福祉士の資格を取得していれば、サービス提供責任者になることができます。サービス提供責任者とは、訪問介護事業所で働くヘルパーの業務管理や業務の実施状況の把握、技術指導や援助内容の指示、利用者の状態の変化やサービスに関する意向の把握など、訪問介護のリーダー的な職種です。また、経験を積むことにより事業所の所長になることもあるでしょう。計画的に事業を展開しているような事業所では、社内で人材を育てて新規に開設する事業所の所長に登用するところもあります。施設であれば、経験を積むことによってフロアー主任、介護長など、介護職員を取りまとめるリーダーとなることもあります。グループホームなど小規模な介護施設では、管理者として働くことも可能です。

介護福祉士として5年以上働くことで、介護支援専門員（ケアマネジャー）の資格を取得することもできます。また、同様に5年以上の経験で実務者研修教員講習会を受講・修了することで、実務者研修の科目である介護過程Ⅲの指導を担当することもできます。さらに、5年間の経験と、介護教員講習会を受講・修了すれば、介護福祉士養成校で介護技術などの専門科目を教授することもできます。つまり、経験や学習を重ねていくことで、専門学校などの教員として働く道も開かれるのです。

高校を卒業後、すぐに介護現場で働き現場経験を積んで資格を得るという道もあります。しかし、質の高い介護を提供するためには、専門知識や技術が必要です。また、介護現場で専門性を発揮し、将来リーダーシップをとっていくためにも介護の基礎的な学習は必要でしょう。介護現場は、多種多様です。将来をみつめ、自分に合った進路選択をすることが重要です。

職種	仕事の内容	要件
サービス提供責任者	訪問介護事業所で働くヘルパーの業務管理や業務の実施状況の把握、技術指導や援助内容の指示、利用者の状態の変化やサービスに関する意向の把握など	以下のいずれかに該当 ●介護福祉士 ●介護職員初任者研修を修了し、かつ実務経験３年以上 ●実務者研修終了
ケアマネジャー（介護支援専門員）	高齢者やその家族の介護相談、ケアプランの作成、要介護認定の書類作成代行、介護サービスの調整など	●介護福祉士資格取得後、実務経験５年以上 ●相談援助業務（生活相談員、支援相談員、相談支援専門員、主任相談支援員）に従事し、実務経験５年以上
実務者研修の教員	実務者研修の専任教員、介護過程III担当の教員	実務者研修教員講習会修了かつ実務５年以上の介護福祉士
介護福祉士養成校専任教員	介護福祉士養成に関わる専門科目（医療的ケア以外）の教員	介護福祉士の資格取得後、5年以上の実務経験かつ介護教員講習会修了

Pickup Class

介護福祉科なら、こんな事を学べます！

大学案内等では、あまり詳しく説明されることの無い、介護福祉科の授業や実習について毎回詳しく説明します！

「レクリエーション活動援助法」「レクリエーション実技」

担当：片山昭義

レクリエーションは、2009年のカリキュラム改定から、国家資格の必修科目ではなくなっています。しかし本学では、レクリエーションは介護福祉士にとって非常に大切な科目であると認識し、3科目（レク活動援助法、レク実技、スポーツレク論）も学科のカリキュラムに位置づけるとともに、更に公益財団法人日本レクリエーション協会が認定するレク・インストラクター資格も取得できるようになっています。

【レクリエーション】って何でしょう？自分の趣味活動や、友達同士で楽しむことを想像する方が多いと思います。それならば、大学で勉強する必要はありません。授業は、そのイメージを変えることから始まります。つまり「自分が楽しむレク」から「介護の手段としてのレク」というイメージの転換が重要なのです。

レクの基本である**【楽しさ】**を活用して、対象者が自然とからだを動かしたくなるような活動を提供する方法や、対象者同士が自然に会話できるような雰囲気作り、普段の生活には無いようなイベントの企画術など、いつまでもイキイキと生きがいを持って生活していただけるような支援方法を学びます。

入試に関するお問合せは 浦和大学・入試広報課 048-878-5536

介護福祉士国家試験新制度と資格

平成28年3月、国会で「社会福祉法等の一部を改正する法律」が成立し、介護福祉士制度について、国の方針が定まった。

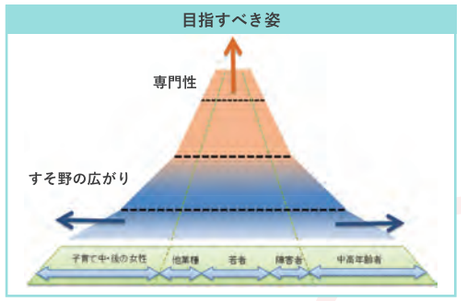
養成校ルート

平成27年度の卒業生は、現行のまま、卒業と同時に介護福祉士の国家資格が与えられる。その資格取得条件には、医療的ケアは含まれていない。

平成28年度から養成校卒業生にも国家試験が始まる。その科目には、医療的ケアが含まれる。5年間、受験は任意である。平成28～32年度の卒業生は、卒業と同時に、5年間の期限付きで介護福祉士の国家資格が与えられる。5年間介護の現場で働くか、試験に合格すると、資格を生涯保持することができる。

実務ルート

平成27年度から、実務者研修が義務づけられる。試験科目には、医療的ケアも含められ、養成校ルートと1年のズレが生まれることになった。通信教育には、6ヶ月が義務づけられていたが、緩和された。既に資格取得の研修を受けている場合には、義務づけられている科目が少ないためである。



出典「介護人材確保の具体的な方策について」
社会保障審議会福祉部会　第３福祉人材確保専門委員会（平成２７年１月２７日）資料

介護福祉職の専門性の展望

国は、介護職の専門性を階層化して高めようとしている。利用者の状況に応じたケアを提供するには高い専門性が不可欠であるが、高い専門性の職員だけでは介護の現場を維持することはできず専門的な知識がない職員も必要としている。介護の現場の中堅的な職員となるのが、介護福祉士である。

学科教育の方針

学科では、医療的ケアを含めて、求められている知識・技能を学生に付けて、介護福祉士の国家試験に合格できる力をつけて社会に送り出すことを目標に教育を行う。3年前に国試導入が予想された段階で、2年生の国試科目の授業を12月までに終了し、1月を特訓期間とするカリキュラムを作成している。そのカリキュラムにそって、国試対策科目キャリアデザインで指導する。

なお、医療的ケアを担当するのは看護師を経験し、さらに大学院教育を受けている2名の専任教員である。学科は、医療的ケアの教育を充実させるために、機器を充実させるとともに、専任教員も充実させている。

浦短総人語

介護福祉科学科長によるコラムです。

介護や福祉の領域から、世の中の出来事を考えてみたり、その領域を外側から眺めたりするコラムです。

Illustration by Wakana Sakurai

介護離職を0にすると安部首相が国民に約束された。しかし、介護の人材不足から特養などの施設を計画通りに開設できない事態が起きている。人材不足の解消は、日本社会の大きな課題である。

昨年、全国の介護福祉士養成施設の組織で、地域の介護人材育成についての調査研究事業を行った。その調査研究のなかにベトナムやモンゴルから来日して、日本語学校で学ぶ学生に体験的な授業を受けてもらい、介護を学ぶことへの関心等を調査した。

介護を学ぶことに強い関心を持った学生は、核家族出身者ではなく、複合家族の出身者が多いことが分かった。日本の若い人々と同様に、高齢者との関わりが大きな影響を与えている。また、将来、どのような社会で働きたいか、「高い所得」「高い社会的地位」「差別のない社会」「安全な社会」を問う質問に対して、介護に関心が高い学生は、「安全な社会」を回答していた。多くの若い人々が日本で学びたい、働きたいと考えている。決して、お金を儲けるため、社会的地位を高めるためだけに日本に来ようとしているのではない。平和で安全な社会を作ろうという気持ちは、私達と共有できるものである。

日本は政治、命を含めて、外国人の受け入れに極めて消極的である。国際的な動乱は、日本に人を引きつけている。日本には長い伝統のなかで培った社会を安全・安心に維持形成する社会的な技術がある。その技術が人口減少のなかで失われようとしている。先人達が生み出したその資産を、海外の人々とともに、私達は次代への継承、をしてもよいのではないだろうか。